

先 驅

66・9・15
32号

1部 10円
25号分 400円(千共)

先 驅 社
東京本社 東京都千代田区
神田駿河台3の2
東京ビル内(251) 7213
大阪支社 大阪市福島区
洲上3の3 土真ビル内
(458) 0235
京都支社 京都市左京区下
鴨宮崎町128の29
振替 東京 64937
編集発行人 正木 真一

すべての工場、地域、学園に
共産主義者同盟を
組織せよ！
共産主義者同盟統一委員会

「死の商人」の摘発、抗議から

10.21ゼネストへ！！

全同盟員は闘いの先頭に立とう

戦後世界体制の成立と米帝戦争

第二次世界大戦は、極軸国対連合軍の戦いであり、連合軍の勝利に帰したものであるが、実際には、アメリカの圧倒的物質力による勝利であった。

オロギンであったことを改めて確認しなければならない。

「死の商人」の摘発、抗議から

ベトナムの解放戦線を支援し、闘争を組織することの形骸となる

ベトナムの解放戦線を支援し、闘争を組織することの形骸となる

ベトナムの解放戦線を支援し、闘争を組織することの形骸となる

ベトナム闘争とインターナショナルナショナリズム

その後の米ソ対決の強化される中で、アメリカの反共政策は、社会主義陣営に込められた世界戦略として確立され、そのためには戦火をも辞さない力の政策を遂行したが一九四九年中国革命の成功をもつてソ連政策を中心に全面化、一九五〇年の北朝鮮侵略として現実化したのであった。また、大戦による敗北、あるいはその打撃のために帝国主義諸国は旧植民地領の支配力を減退し、かつ民族独立運動の高揚の中で多くの旧植民地領は独立を勝ち取ったが、その経済基礎の脆弱さと政治不安は、その社会主義的発展の潜在的要因を増大させていた。なかんずくベトナム諸国は中国革命の影響によりその激動の渦中をさまよった。

第二次同盟の綱領

第一次共産主義者同盟は、その立脚点を、不十分な第三インターナショナルの連帯条件擁護のせいで、その内部論争とその実践面を対峙した。トロツキーの擁護した先づきの観念そのものの発展が重要な鍵を握ることとなった。即ちプロレタリア世界革命の実現目標と同時に、それをいかに実現するのかが問題である。

左派の戦略戦術

「革命的戦略の概念は、ただ第一次大戦後、しかも始めは明らかに軍事的事業の進展下に

危機の意識的把握と主体的総括の結合を再建するべき同盟の課題

ロツキー「レーニン死後の第三インターナショナル」の中で、トロツキーは、第二インターにおける戦略喪失に対し、第一インターにおいて、理論的のみならず、政治的の発展段階と権力との弁証法的関連を把握しなかつた。それはスターリン主義の戦略戦術から分離し、これを克服しなかつた。

我々の戦略戦術への前進

このような同盟の喪失が、根本的に戦略の不在によるものであり、更に戦術面において意志統一した組織を確立しなかつたことと表裏の関係にあることは明かである。それ故に我々の当面する同盟統一再建は、スターリン主義戦略戦術に對し改めて革命的な戦略戦術を創進すべく意志の集中をはからねばならない。

かくて、資本主義の矛盾を世界的に把握し、その方法が必然化する危機の性格を、第二次大戦後の国際的体制の流動化から崩壊の過程において、この中で、国際的な天階級の死をかけた闘争を組織することが第一の要件となる。そして、その作業は二つの側面から遂行されなければならない。一つは客観的な危機の成熟過程そのものの把握である。第二はこれを革命的な危機にまで昇進させることである。

